

2021年5月10日

新型コロナウイルス感染拡大に係る

児童育成クラブの対応改善を求める緊急申入れ

日本共産党熊本地区委員会

委員長 重松 孝文

日本共産党熊本市議団

上野 美恵子

那須 円

変異種の広がりもあり、感染が急拡大している新型コロナウイルス感染症は、「第4波」を迎え、熊本市においても新規感染者数は過去最多を更新している状況です。急速な感染拡大に、医療のひっ迫も懸念されます。しかも、「第4波」の特徴は、若者や子どもへの感染の広がりです。全国的に発生してきた学校や部活等でのクラスター発生は、熊本県下にも及び、スポーツクラブ・学校でのクラスターに続き、児童育成クラブでのクラスター発生によって、保護者や関係者の間に不安が急速に広がっています。

私ども日本共産党市議団にも、「変異種の広がり子どもへの感染も広がっている。児童育成クラブは入所児童も増え、多数の子どもたちが限られた施設で長時間過ごしており、感染を心配する。」「育成クラブの感染対策は万全に行われているのか。備品確保や施設環境への対応はどのように行われているのか。」「指導員はPCR検査を受けているのか。」など、さまざまな声が寄せられています。

この間、複数の児童育成クラブの現状を調査したほか、関係者からの聞き取りなども行ってきました。これらの状況を踏まえ、新型コロナウイルスの感染から子どもを守り、保護者・関係者の不安に応え、安全・安心の児童育成クラブにするため、以下の点を緊急に要望いたします。

(要望事項)

- 1、三密を避けた保育環境にするために、児童の施設専有面積基準(子ども一人あたり 1.65 m²以上)を新型コロナウイルス禍にあっては緩和し、ゆとりのあるスペースでの保育を実施すること。そのために、厚生労働省等も推奨している学校の教室

活用等をより一層すすめること。

- 2、保育スペース拡充と新型コロナへの丁寧な対応ができるよう、指導員の配置拡充を行うこと。
- 3、必要な指導員を確保し、質の高い保育を実施するためにも、指導員の更なる処遇改善を図ること。
- 4、児童育成クラブ指導員を公費による定期的な PCR 検査の対象とし、速やかに実施すること。
- 5、それぞれの育成クラブの保育環境に違いがあるので、現場指導員の意見を聞き、効果的な方法による感染防止対策をさらに充実すること。(おやつ時のアクリル板設置拡充、指導員への不織布マスク配布、消毒薬等の整備など)
- 6、児童育成クラブの「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を策定し、その内容を指導員・保護者に徹底すること。
- 7、新型コロナ感染の長期化で、経済的に困窮している家庭が増えており、今年10月から予定している児童育成クラブ利用者負担金上げは中止すること。

以上